

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス めばえサクラ 児童発達支援			
○保護者評価実施期間	令和7年1月15日 ~ 令和7年3月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	3名
○従業者評価実施期間	令和7年1月15日 ~ 令和7年3月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月25日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の特性に応じた支援内容、活動の提供。	それぞれの発達段階においての5領域の視点「健康・生活」、「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の視点を軸に支援計画を作成し、その内容を活動の場、例えば工作などの製作活動や表現遊びなどで実践している。	毎月のミーティングにおいてそれぞれの状況や課題点を確認しながら提供できる活動内容や関わりを細部に渡り決定していく。特にそのお子様の持つ「強み」を生かした活動の提供が出来るよう、今後も発達に沿った支援の提供に取り組んでいきたい。
2	余暇活動の中でそれぞれが主人公になる環境の設定。	活動や支援内容が受動的に提供されるのではなく「やつてみたい」、「チャレンジしたい」という主体的な「心の育ち」をはぐぐめるような雰囲気作り、環境作りを心掛けている。	お子様だけではなく、スタッフ全員が個性や強みを生かせる活動内容や環境作りを今後も行いたい、と考えている。特に就学前のお子様の発達の状況に応答できる柔軟性を伴う支援を心掛けしていく。
3	現状の課題をスタッフ全体で共有し、支援内容に生かしていくチームとしての体制。	日々の些細な問題やを課題等を早急に全体で共有し、どのように支援が可能か?またどのように具体的に実現していくか?ということを話し合いながら日々の療育に落とし込んでいる。	ミーティングの際に常に全体の意見だけではなく、一人一人の職員の考え、思いなどを支援内容に反映することが出来るように、加えて統一性のある支援を心掛けて今後も良い支援チームを作り上げて行きたいと考えている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会の開催や、ご家庭への支援プログラムが十分とは言えない。	当事業所は現状、平日、祝日、長期休暇のみのご利用のため、プログラムやイベントの開催が少ない面がある。また、保護者の方々も平日働かれている方がほとんどのため、なかなか時間が取れないのが現状。	今後はサービス提供日を含めて、保護者と利用児童、両方が参加したいと思えるイベントを企画・運営に落とし込んでいきたい。
2	地域交流およびインクルージョンとしての支援の提供が十分とは言えない。	地域参加、インクルージョンに関しては自治体のみならず社会としての「具体的な取り組みが福祉分野においての課題」という状況のため、地域の情報を収集しながら支援の内容を検討していきたい。	地域の福祉分野においての取り組みを十分にリサーチして当事業所の取り組みに繋げていきたいと考えている。また一時的な内容のものではなく、定期的に継続して取り組みが可能な支援を検討したい。
3	バリアフリーおよび医療的な支援内容が十分とは言えない。	事業所の建物のハード面に関しては改善可能なものと改善が困難なものがあり、どのように適応可能な環境を提供出来るのかを十分に検討していきたい。医療的ケアに関しては看護師の獲得が困難な状況であっても、現状の有資格者で対応可能な支援を吟味していきたい。	全国の事業者による取り組み等を参考にしながら、当事業所でどのような支援が可能であるか?ということをスタッフ全員が個々に考えて実際の支援に繋げていきたいと考えている。医療ケアに関する外部研修にも参加し、スタッフ全員の研鑽にも努めて行きたい。